（別紙4） 平成 27 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070900956		
法人名	医療法人 ながら医院		
事業所名	グループホーム 月華 （月ユニット）		
所在地	〒812-0014 福岡県福岡市博多区比恵町12番21号 TEL 092-477-3123		
自己評価作成日	平成28年02月12日	評価結果確定日	平成28年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294
訪問調査日	平成28年03月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ADLの維持できるように利用者に適したケアを考え、その人らしい生活ができるように支援を行っている。昼間看護師が常勤し、専門的立場からの健康管理を徹底している。また、月に2回理学療法士が訪問し、体操や身体機能維持するための指導を行っている。
母体の医院との協力体制も整っており、緊急時など迅速に24時間体制で支援をしている。看取りについても定期的な勉強会を行い、認識を高め体制作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに〇印		項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに〇印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：25.26.27）	〇 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,21）	〇 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：20.40）	〇 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,22）	〇 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：40）	〇 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	1. 大いに増えている 〇 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：38.39）	〇 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	〇 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：32.33）	〇 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 〇 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：30）	〇 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altｷｰ) ＋ (Enterｷｰ) です。〕

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内に掲示している。全体会議の際に理念について話し合い、それに基づいたサービスが提供できるように取り組みを行っている。各自の名札の裏にも理念を記載し遂行している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の清掃や夏祭り、近所の幼稚園の運動会に入居者と参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一階のサロンで毎週行われている地域のサロンに参加している。地域の方に夏祭りや敬老会などの行事に定期的に参加してもらい交流を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの内容や評価の取り組みについて報告し、意見交換を行ってサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営についてや入居に関する事について行政担当者に電話で連絡を取り相談している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットの玄関や居室には、鍵をかけていない。各ユニットの玄関には、人感センサーを設置している。マニュアルを用いた研修を行い、拘束をせずに行えるケアを話し合い取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修参加や勉強会を行い、常に認識を持たせ防止に取り組んでいる。皮下出血を起こしやすい入居者には、定期的にボディチエックを行い、不自然な傷等がないか確認している。ケアを行っている中で何か問題が発生していないか等、全体会議の際に話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修を行い、制度の内容を学習する機会を作っている。また、必要性を理解し、活用できるようにパンフレットを準備し自己学習できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	契約は、わかりやすい言葉に置き換えて、ゆっくり丁寧にご家族が納得されるまで説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の設置や窓口を作り、面会時や家族会、電話での相談など利用して家族からの意見や思いの表出に努めている。苦情や相談を受けた時は、苦情対策委員会で検討し今後のサービス反映につなげている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議で出た意見をまとめ、全体会議で検討しケアに反映させている。職員の個人面談を定期的に行い、意見を出す機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	人事考課の自己評価で自分自身を振り返り、向上心を持って働けるように資格取得の支援も行っている。また、会議などで現場の報告を聞きながら意見を取り入れ働きやすい環境を作っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集･採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても,その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用に関しては、年齢や経験の有無の制限は行っていない。面接後に職場体験を実施し、本人の意思を確認した上で採用を決めている。休みの希望などは、可能な限り調整している。		
14	10	○人権教育･啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に個人の尊厳についての研修を行い、各自考える機会を作っている。入居者への対応方法や日々の業務などに反映できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や医院の研修に参加している。また、新人研修やスタッフ個人が決めて行う勉強会も行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修やグループホームネットワークの研修に参加している。情報を取り入れサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問した際にご本人の話を傾聴している。ご家族の方の希望や要望など聞き少しでも安心して生活できるように関係作りに努めている。ケアマネジャーやSW、主治医などと連携を図り情報取集を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学してもらった時に詳しく話を聞くようにしている。入居申込書に希望や要望の記入欄を設けている。また、いつでも電話相談ができるように体制を整えている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在利用されているサービス内容を確認し、ホームで行うサービス内容について説明を行っている。また、ショートステイを利用してもらい入居の時期などを検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でできる事は、出来る形で行ってもらえるように促し、一緒に協力して行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の日程を事前にお知らせし、家族参加を短時間でもお願いして本人が家族と触れ合う時間を作っている。面会時には、最近の様子をお話して現在の状態を理解して頂くようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が入居前から付き合いのあった近所の商店街などに外出支援を行なっている。行けない時は、配達してもらっている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係、性格を考慮し座席を決めている。家事など入居者同士が協力してできるように促している。また、職員が間に入って孤立しないようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も行事に参加してもらったり、電話相談を受け支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情や反応、家族との会話の中で思いや希望をくみ取り、情報取集を行い意向に沿ったケアを行えるようにしている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を引き出し、センター方式を使用生活背景の把握を行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今まで生活されてきた状況や今現在の状態を把握し、その人に応じた生活ができるように情報の共有を行っている。身体状況に何か変化がある場合は、ケアの見直しを行い、早期に対応している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認し、センター方式を活用しyて介護計画書を作成している。その人らしい生活が送れるように本人、家族、スタッフ間で話し合いを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や身体状況の変化など細かな情報までスタッフ間で共有し、ケアに活かしている。実践」した結果を話し合い介護計画に役立てている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向に柔軟に対応できるように体制を整えている。定期受診にも同行している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている夏祭りに参加している。学生ボランティアや園児との交流も行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に主治医と緊急時利用の医療機関の利用についての確認を行っている。訪問診療や定期受診の支援を行い、適切な医療が受けられるようにしている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて適切なケアが受けられるように看護職員が昼間常勤している。入居者の異常や変化は看護職員のに報告し、24時間いつでも連絡がとれる体制を作っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、家族とこまめに連絡を取り、状態を把握している。退院前に病院に面会に行き、SWや看護師に話を聞き適切なケアが行えるように情報取集をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する際に重症化した場合の意向について話し合いを行っている。入居者の状態の変化がみられている場合、その都度説明を行いケアの方針を考えている。日常から終末期についての話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い、実践できるように緊急時のマニュアルを作成している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回避難訓練を行っている。災害時ののマニュアルを作成し勉強会を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格や生活環境を把握し、人格を傷つけないように言動に気を配っている。また、声かけのタイミング、大きさや内容など個人に合わせた方法で行っている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや訴えに耳を傾け、わかりやすい言葉で説明し、本人が自己決定できるように支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の心身状態や希望に応じ入浴やレクレーションを行っている。本人がじの意思を尊重し、支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを尊重し、洋服を選んでもらっている。行事や外出の際には、化粧を行っている。訪問美容を利用し、カット･パーマなど本人の希望にあわせて行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の身体状況や意欲に合わせて盛り付け、テーブル拭き、片付けを職員と一緒に行っている。メニューを通し話題提供を行い、楽しい時間が過ごせるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて食事の形態を変えて提供している。水分摂取量の少ない方には、好みの飲み物を本人の飲むペースに合わせて提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアを行っている。利用者に応じてブラシやガーゼ、スポンジなどを使用している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人別のチェック表を使用し、排泄パターンを把握している。その情報をもとにトイレ誘導を行っている。日中は、トイレ介助を基本としている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように栄養バランスのよい食事を提供し、水分補給を一定量行っている。腸の運動を促すために毎朝体操を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日は、決まっているが本人の希望やタイミングに合わせて入浴してもらえるように支援している。本人のニーズに合わせて香りや気分も楽しめるよう入浴剤を使用している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に応じて起床や食事の時間を変更している。その日の体調に応じてソファや居室で休息されるうにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ室にファイルを置き、いつでも確認できるようにしている。観察、情報の共有を行い、細かい変化についても対応できるようにしている。嚥下状態によって粉砕にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の状態に合わせて家事や炊事などの役割作りを促している。個人が楽しめる趣味やレクレーションなどを楽しめる時間を作っている。		
51	２１	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に買い物に行ったり公園に散歩に出かけたりと本人の希望に合わせが外出支援を行っている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には、少額所持してもらっている。外出時は、本人が希望すれば職員と一緒に管理、所持し使えるようになっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されれば、職員がダイヤルを押して話ができるように支援している。また、ハガキの宛名書などの支援も行っている。		
54	２２	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の色は、落ち着いた配色の物を使用している。温度、湿度の管理も行っている。花や壁の飾り付けを行い季節感を出すようにしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファ、畳みを設けており、本人も気に入った場所で過ごせるように空間作りを行っている。		
56	２３	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者のなじみの物やご家族の写真などを置き落ち着いて過ごせるような環境にしている。毎日、ごみ捨てや掃除を行い清潔な空間を保って、心地よく過ごせるようにしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「便所」「ゆ」などドアの色を変えて大きく表示する事でわかりやすくなっている。車椅子に移動する際立ち上がりが安全に行えるようにベットにL字柵を設置している。		